

日下川流域水害対策計画【素案】に係る 「ご意見・ご質問」と対応方針



令和7年6月2日

日下川流域水害対策協議会

日下川流域水害対策計画【素案】に関する意見について

○ 令和7年3月28日に日下川流域水害対策計画【素案】を公表し、パブリックコメントを実施するとともに、学識者へのヒアリング、日下川流域住民説明会を開催しました。

①パブリックコメント

国土交通省、高知県及び関係自治体に日下川流域水害対策計画【素案】の閲覧場所を設置するとともに、ウェブサイトに掲載し、ご意見を募集しました。
意見募集期間：令和7年3月28日～令和7年5月2日
意見募集方法：郵送、Eメール、ウェブサイト、ご意見投入箱



閲覧場所設置状況

②学識経験者への意見聴取

日下川流域水害対策計画【素案】について学識経験者へ意見聴取を行い、ご意見をいただきました。

対象分野	氏名	ご所属
河川工学	岡田 将治	高知工業高等専門学校 教授
河川工学	笹原 克夫	高知大学 教育研究部 教授
農業	佐藤 周之	高知大学 教育研究部 教授
都市計画・防災	坂本 淳	高知大学 教育研究部 講師

③日下川流域住民説明会

開催日	開催場所	参加者数	意見数
令和7年4月17日(木)	日高村役場 3 階会議室	2人	8件
令和7年4月20日(日)	集落活動センター 加茂の里	5人	3件
令和7年4月29日(火)	日高村役場 3 階会議室	9人	9件



日高村会場



佐川町会場

日下川流域水害対策計画【素案】に関する「ご意見・ご質問」とその対応

No.	分類	テーマ	聴取区分	市町村名	ご意見・ご質問の概要 (下線部：意見の主たる部分)	回答	回答に対応した修正案
1	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	日高村	柳瀬川からの日下川流域への浸水について、柳瀬川の改修を早急に実施いただければ大丈夫かと思うが、 <u>今後も県道を伝って浸水があると計画が不安になる。</u>	本計画は平成26年8月台風第12号の降雨を都市浸水の発生防止軽減を図るべき目標となる降雨に設定するよう考えています。 なお、柳瀬川については、昭和50年8月の洪水を受け、佐川町下山から上流の斗賀野等にかけて、本川及び支川の改修工事を実施し、完成しており、平成26年8月当該降雨の際は、昭和50年8月と同様の事態は発生していません。	—
2	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	佐川町	<u>昭和50年8月洪水で佐川町も甚大な被害を受けており、その際に柳瀬川流域から県道を伝って日下川流域に流れ込んでいた。本計画はそれら昭和50年8月洪水を考慮しない計画なのか。</u>	他方、下山地区から仁淀川合流点までは、未改修区間となっており、現在、下流から河川改修を進めているところですが、早期に整備できるよう取り組んでまいります。	—
3	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	佐川町	加茂地区でも甚大な被害があると思うが、 <u>佐川町の住民があまり関心を持っていない状況。</u> <u>広報等を活用してもう少し浸水被害等について周知していただきたい。</u>	特定都市河川の指定、流域水害対策計画の策定をきっかけとして、流域の皆様には水害リスクを自分事化していただくよう、引き続き広報に努めてまいります。	—
4	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	日高村	<u>日下川流域水害対策計画について、いつまでに策定される予定か。</u>	今後、皆様からいただいたご意見を踏まえ作成する「日下川流域水害対策計画【案】」について第3回日下川流域水害対策協議会でご審議いただき、策定合意を得た後、令和7年6月中旬の策定・公表を予定しております。	—
5	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	佐川町	<u>洪水時の浸水が大きな課題である地域なので、できる限りの事をしようという取組で期待している。</u>	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—
6	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	佐川町	<u>林業に対する働きかけや連携など、それらの視点も入れる計画はないのか。</u>	仁淀川では流域の関係機関により仁淀川流域治水協議会を設立し、流域治水の取組を推進しているところ	—
7	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	説明会	佐川町	増えた雨の対策はよく計画に盛り込まれていると感じるが、 <u>山に降る雨との関わりもあると思うので、治山や砂防など広い視点で検討いただきたい。</u>	です。 この協議会には、林野庁 四国森林管理局等の森林関係機関も参画しています。	
8	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	学識者	—	<u>ソーラー発電による山の乱開発等にも注意しているという姿勢を示すという意味でも、協議会等で山の対策に関する記載の必要性について議論していただきたい。</u>	仁淀川流域治水協議会の取組状況を踏まえ、今後必要に応じて日下川流域水害対策協議会への参画を検討してまいります。	
9	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	学識者	—	<u>計画に森林部局の取組（整備や維持管理等）に関する記載がなく、森林の洪水緩和機能等についても計画に追記することが望ましいため、県の森林部局の参画を促すべき。</u>		
10	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	パブコメ	日高村	<u>計画に住民がどのように関わっていけばよいかより分かりやすい説明をお願いします。</u> 日高村の水害対策に国、県、村が一体となって尽力していただき、感謝申し上げます。 水害の被害が今後より一層少なくなることを願います。	計画に対する住民の関わり方については、今後の日下川流域水害対策協議会等を通じてよりわかりやすく説明するよう努めてまいります。	—
11	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画全般	パブコメ	日高村	(私権の制限と公平性) <u>河川流域水害対策に反対するのではないが、この計画制度を策定施行にあたっては地権者に対する公平性に疑問を持たざるを得ない。そもそも低地の所有者は作物の栽培や他の利活用転用などに対し不利の状況下にあるがこの制度（埋立の制限・貯留浸透整備等）により一層の不利益となる。協働と安全の名のもとに低地所有者への一方的不利益を与えるのであれば公平性の観点からまずはきちんと制度施行と同時に何らかの担保することが必要ではないだろうか。</u> 日高村役場職員の過去指導によれば一方的に埋めたらいかん。埋めたら埋めた分穴を掘れと言説指導があったがこれでは土地が低ければ低いほど不利益の増大化が増す。	雨水浸透阻害行為の許可については、日下川流域のこれまでの浸水被害や浸水特性を踏まえると、今後の開発行為による浸水被害の拡大を防止するためには必要な措置であることをご理解ください。	—
12	流域水害対策計画全般	流域水害対策の目標	説明会	佐川町	<u>都市浸水想定区域図について、実際の浸水状況と異なるように感じる。</u>	都市浸水想定区域図は計算上のシミュレーション結果のため、実際の浸水状況と一致しない部分はありますが、精度を高められるよう引き続き検討してまいります。	—

日下川流域水害対策計画【素案】に関する「ご意見・ご質問」とその対応

No.	分類	テーマ	聴取区分	市町村名	ご意見・ご質問の概要 (下線部：意見の主たる部分)	回答	回答に対応した修正案
13	流域水害対策計画全般	流域水害対策の目標	説明会	日高村	分担量に記載のある調整池 826千m ³ は調整池整備時のものかそれとも現時点のデータなのか。堆砂等で貯留可能容量が減少していると思われるため、整備時のデータで計画するのは間違えているのではないのか。	分担量に記載の容量は調整池整備時点の貯留可能容量です。 土砂の流入等がある場合は適宜浚渫等を実施することとしており、今後も適切な維持管理に努めてまいります。	—
14	流域水害対策計画全般	流域水害対策の目標	パブコメ	日高村	説明会資料14ページ調整池826千m ³ は調整池造成時の体積、年数を経過して土砂の流入などで、体積が減少していることが加味されていないのは極めて実態に即していない。 鹿児橋付近ではシラサギなど渡り鳥が遊んでいるのを見かけるが、その時水深の浅いのに愕然とした。 また、沖名遊水地では、周辺の畑の耕土が流れて畑として機能しなくなっている事実もあり、造成時の体積が維持されているとは考えられない。造成以来一度も浚渫を行った事実はなく何点かの水深を計測して現時点での体積を推計するのが現実的な対応ではないか。一考を望む。		
15	流域水害対策計画全般	流域水害対策の目標	学識者	—	現在作成している流域分担図は最大時点での湛水量のみのため、田んぼダムや雨水貯留施設等がどの時間帯で効いてどこで効かなくなるのかわからない。 今後は水収支分布図を用いて各時間帯毎の湛水量等を算出し、どの時間帯でどの施設で分担するかを検討する必要がある。	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—
16	流域水害対策計画全般	流域水害対策計画の計画管理	説明会	日高村	住民としては、現在国や県が行ってくれている事業がよくわかっていない状況。 日下川流域水害対策計画について、大きな目標はわかるが具体的な日下川の河川整備事業のイメージ、進捗を教えてください。具体的な河川改修事業の進捗や数値目標等を明示する予定はあるのか。	高知県において、現在、日下川については、神母樋門から国岡橋までの区間の整備を令和11年度までの事業期間で進めています。 長竹川については今後整備を予定しており、現在用地取得に向けた準備等を実施しています。 具体的な事業の進捗等については、仁淀川水系河川整備計画の点検により、仁淀川流域学識者会議で報告を行ってまいります。 あわせて、日下川流域水害対策協議会や各事業の地元説明会など様々な機会を通じてお示ししたいと考えています。	
17	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	説明会	佐川町	県が行う日下川、長竹川の河川改修について、目標分担量の図に記載のとおり湛水量が261千m ³ 解消されるのか。 また、それを30年かけて行うのか。	解消される見込みです。 ただし、河川改修については、用地取得が必要な箇所もあることや、河川の流下能力が下流に対して上流の方が大きくなることがないように上下流のバランスを考慮しながら整備を進める必要があることなど、整備には一定の期間が必要となりますが、早期に整備できるように取り組んでまいります。	—
18	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	説明会	日高村	樋門が損壊し、機能なくなると昭和50年災害をはるかに超える被害となるため、樋門の耐震・老朽化対策について出来るだけ早く実施をお願いします。	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—
19	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	パブコメ	日高村	樋門等の耐震・老朽化対策 日高村は津波の心配がないと村外からの転住者が言われるが、それには大前提がある。堤防や樋門が決壊しないという前提です。これまでの説明でも水圧に対する堤防の強度はできているが、地震の揺れに対する強度は保証できないと言われています。地震は必ずしも晴天時のみではありません。台風時に来ないとも限りません。河川が満水時に強度の揺れが生じれば決壊しない保証はありません。 その意味で樋門の耐震化は、現時点で考えられる最高の強度の物を望みます。災害時によく言われる「想定外でした」を言わなくてもいいものにしてほしい。これが全村民の思いです。		
20	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	説明会	日高村	長竹川の河川改修事業により河道幅が大きくなるが、長竹川から日下川への流量が多くなり一時的に大量の雨量が流れ込んでくるのではないのか。 上流から調整池までの範囲は河川幅はあるが小鹿児（カガコ）橋から赤兀（アカガ）橋までの区間の河川幅が狭いため、上流から流れてきた水を放水トンネルまでスムーズに流すには小鹿児橋から赤兀橋までの区間も河川改修が必要ではないのか。	長竹川の河川改修にあたっては、令和元年10月洪水を安全に流下可能な断面を確保できるよう計画しております。 ご意見をいただきました区間については、上流の岡花調整池での貯留量を考慮しているため、河道の負担が減少し下流の川幅が上流に比べて狭くなっています。	—

日下川流域水害対策計画【素案】に関する「ご意見・ご質問」とその対応

No.	分類	テーマ	聴取区分	市町村名	ご意見・ご質問の概要 (下線部：意見の主たる部分)	回答	回答に対応した修正案
21	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	説明会	日高村	<u>小鹿尻(コカゴ)橋から赤元(アカハヅレ)橋区間の南側は管理道もなく、現状竹が川の方へ倒れかけている状況です。南側にも管理道を整備していただき竹の管理が出来る状況を作っていただきたい。</u>	河道の流下能力の維持、向上等を目的として、適切な維持管理に努めてまいります。 阻害となっていると思われる箇所がありましたら、管轄の土木事務所まで連絡いただけましたら、現地を確認し、対応を検討いたします。	—
22	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	説明会	日高村	<u>排水ポンプ車について、高知河川国道事務所管轄では何台保有されていて、同時に何箇所への出動が対応可能でしょうか。</u>	現在、高知河川国道事務所では6台の排水ポンプ車を所有しています。 また、高知河川国道事務所以外の事務所でも所有していますので、臨機に対応してまいります。	—
23	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	パブコメ	日高村	<u>排水ポンプ車の常設は無理な願いでしょうか。6台を備えているとのことですが、仁淀川水系、土佐市、いの町、日高村同時に必要とする事態はあり得ます。それぞれが常設をしたうえで、補強しあう体制が必要ではないか。</u>	排水ポンプ車は内水排除を臨機に対応するための災害対応機械のため、排水ポンプ車の常設は困難ですが、高知河川国道事務所以外の事務所でも所有していますので、臨機に対応してまいります。	—
24	特定都市河川の整備に関する事項	国・県・市町村が行う河川の整備	パブコメ	日高村	(日下川流出阻害) 日下川流域の浸水原因の一つに仁淀川本流の河川床上昇が古くより言われていたと記憶しているがその原因は八田堰にあるものと言われてたとも記憶してる。ここ数十年の間にさらに河川床が上昇してると感じるところであるがこの度国県村の協力で江尻地区親水公園が整備されましたが河川敷部になにゆえに他地域(南国災害残土や土佐市砕石)などから土石類を持ち込み10tダンプが通行できる歩道を設置したのか疑問です。ひとたび本流が増水すれば土石流失し河川床の上昇の一因に寄与し合わせて仁淀川の色石に対して環境阻害になるのではないのでしょうか。	河川敷部の整備には、全て仁淀川で実施している河道内の掘削土砂を有効活用しています。 整備内容は、河川敷部を利用しやすくするために表層部分を掘削土砂に置き換えを行うとともに、河川管理道として車両が通行できる通路を設置しております。	—
25	特定都市河川の整備に関する事項	流出抑制対策	説明会	佐川町	「田んぼダム」について、実際に田んぼ所有者の費用を負担して排水路等の整備を行ってくれるのか、個人負担での実施になるのかもう少し補助制度等について具体的に教えていただきたい。 <u>5年後、10年後に自分の代で田んぼを辞めるとなった際にどうなるのか。</u>	「田んぼダム」の実施に向けた農地の整備や補強、調整板の設置等には、農林水産省が所管する農地整備事業や多面的機能支払交付金等を活用することができます。 補助制度の詳細については、農林水産省の「田んぼダムの手引き」やウェブサイト等をご確認ください。 田んぼを辞めるとなった際は、引き続き取組を実施できる方法に関係者で検討させて頂きたいと考えています。	—
26	特定都市河川の整備に関する事項	流出抑制対策	説明会	佐川町	<u>雨水貯留浸透施設の整備の推進について、長竹川上流部に道の駅や産業廃棄物の最終処分場の整備を行うが、なぜ整備候補地に含まれていないのか。</u>	都市計画法や森林法に基づき、既に調整池の整備を行っているため候補対象外としています。	—
27	特定都市河川の整備に関する事項	流出抑制対策	学識者	—	「田んぼダム」により、畦畔の補強や排水部の堰板の自動化・遠隔化を行うことによって、日常的な田んぼの管理が楽になるなど田んぼの所有者にもメリットがある。「田んぼダム」の取組を推進するためには、そのような日常的なメリットを前面にアピールして、農家の方々の理解を得る工夫が重要。	流域治水へのご理解と「田んぼダム」の取組推進に向け、引き続き広報に努めてまいります。	—
28	特定都市河川の整備に関する事項	流出抑制対策	説明会	日高村	<u>長竹川上流で産廃処理場を建設することにより川の流れが変わるので調整池を整備すると聞いている。調整池の容量等、具体的な計画内容は決まっているのでしょうか。</u>	1/100確率降雨を対象として、貯留容量8,513m ³ の防災調整池の整備を実施しています。	—
29	特定都市河川の整備に関する事項	流出抑制対策	パブコメ	日高村	説明資料22ページ「田んぼダム」の取組。発想はいいが現実の問題としては、併せて、耕作放棄対策を進めないと進まないように思う。	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—

日下川流域水害対策計画【素案】に関する「ご意見・ご質問」とその対応

No.	分類	テーマ	聴取区分	市町村名	ご意見・ご質問の概要 (下線部：意見の主たる部分)	回答	回答に対応した修正案
30	その他	その他	説明会	日高村	雨量観測所について、「本郷（旧岩目地）」と記載があるが岩目地は誤った標記のため、記載しない方がいいのではないか。	いただいたご意見を踏まえ、計画【案】の該当ページから「旧岩目地」の記載を削除しました。	下記計画【案】のとおりに計画【素案】を修正しました。 (赤字：【素案】からの修正箇所) 修正内容：本郷（旧岩目地）雨量観測所 計画【案】P1 第1章 第1節 第1項 流域の概要 表1-1 日下川特定都市河川流域の概要 計画【案】P7 第1章 第1節 第1項 流域の概要 ・(3)降雨特性 1行目 ・図1-10 年最大48時間降水量の経年変化 計画【案】P10 第1章 第2節 流域の浸水被害状況 表1-2 主要洪水一覧表 計画【案】P16 第1章 第3節 第1項 治水対策の沿革 (1) 日下川 ・7行目 ・※2の削除 計画【案】P26 第2章 第4節 特定都市河川流域において都市浸水の発生を防ぐべき目標となる降雨 図2-5 都市浸水の発生防止・軽減を図るべき目標となる降雨
31	その他	その他	説明会	日高村	南海トラフ地震等の災害で将来的に河川構造物の老朽化で決壊するような事を危惧している。長竹川上流部で産業廃棄物の最終処分場を建設することによる河川への影響について、自治体間での情報共有をお願いします。	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—
32	その他	その他	パブコメ	日高村	水害対策を主眼に置いているのでやむを得ないと思うが、日高村では、国道33号線は幹線道路でこの液状化対策は避けて通れない課題と思う。今までの説明では、3日以内に啓開するとのことだが、能登半島地震の事例を考慮すれば、事前復興の発想が必要のように思う。	貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。	—

日下川流域水害対策計画 【素案】

主な変更点

日下川流域水害対策計画（計画素案一計画案）

変更箇所対比表

計画（素案）	計画（案）																																										
第1章 日下川特定都市河川流域の現状と課題 第1節 流域と河川、下水道の概要 第1項 流域の概要 日下川は、一級河川仁淀川水系仁淀川の一次支川であり、その源を佐川町下山の低山地に発して東流し、佐川町加茂地先で長竹川、日高村本郷地先で戸梶川を合わせて、仁淀川右岸の河口から約14.2km地点で合流する幹川流路延長11.7km、流域面積約38km²の河川である。 日下川流域の中央を東西に国道33号、JR土讃線が縦走しており、これに沿って日高村の市街地が細長く形成され、昭和50年(1975年)以降において宅地開発が進行している。 また、流域沿川は、豊かな自然環境を残す水田を主とする農地が広がり、生姜生産のほか、トマト園芸などが盛んである。特に施設園芸の主軸をなす高糖度トマトはブランド化を確立、「シュガートマト」として全国に誇れる日高村自慢の一品となっている。 一方で、日下川の低平地部は、昭和21年(1946年)12月の昭和南海地震により1m以上の地盤沈下が生じたとされており、仁淀川合流点から上流に向かって堤内地盤が低くなる極めて特殊な低奥型地形を成している。 日下川流域は、年平均降水量が約2,800mmを超える全国でも屈指の多雨地帯であり、集中豪雨が発生しやすい気候特性を併せ持った流域である。 日下川流域は、古くから浸水被害に悩まされ、日高村史によると、「日高村における水害の歴史は過去三百有余年にも遡る」と記されているとともに、流域における近年の宅地化の進行などにより、その被害が深刻化し、浸水被害軽減に向けた抜本的な対策が求められてきた。 表1-1 日下川特定都市河川流域の概要 <table><tr><th>項 目</th><th>流域の諸元</th><th>備考</th></tr><tr><td>特定都市河川流域</td><td>37.7km²</td><td></td></tr><tr><td>特定都市河川</td><td>日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川</td><td></td></tr><tr><td>河川勾配</td><td>日下川：約1/3,000</td><td></td></tr><tr><td>流域内市町村</td><td>日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）</td><td>括弧書きは流域に占める割合</td></tr><tr><td>流域内人口</td><td>約6,000人</td><td>第10回河川現況調査</td></tr><tr><td>年平均降水量</td><td>約2,800mm ※本郷（旧岩目地）雨量観測所（国）</td><td>平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測</td></tr></table>	項 目	流域の諸元	備考	特定都市河川流域	37.7km ²		特定都市河川	日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川		河川勾配	日下川：約1/3,000		流域内市町村	日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）	括弧書きは流域に占める割合	流域内人口	約6,000人	第10回河川現況調査	年平均降水量	約2,800mm ※本郷（旧岩目地）雨量観測所（国）	平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測	第1章 日下川特定都市河川流域の現状と課題 第1節 流域と河川、下水道の概要 第1項 流域の概要 日下川は、一級河川仁淀川水系仁淀川の一次支川であり、その源を佐川町下山の低山地に発して東流し、佐川町加茂地先で長竹川、日高村本郷地先で戸梶川を合わせて、仁淀川右岸の河口から約14.2km地点で合流する幹川流路延長11.7km、流域面積約38km²の河川である。 日下川流域の中央を東西に国道33号、JR土讃線が縦走しており、これに沿って日高村の市街地が細長く形成され、昭和50年(1975年)以降において宅地開発が進行している。 また、流域沿川は、豊かな自然環境を残す水田を主とする農地が広がり、生姜生産のほか、トマト園芸などが盛んである。特に施設園芸の主軸をなす高糖度トマトはブランド化を確立、「シュガートマト」として全国に誇れる日高村自慢の一品となっている。 一方で、日下川の低平地部は、昭和21年(1946年)12月の昭和南海地震により1m以上の地盤沈下が生じたとされており、仁淀川合流点から上流に向かって堤内地盤が低くなる極めて特殊な低奥型地形を成している。 日下川流域は、年平均降水量が約2,800mmを超える全国でも屈指の多雨地帯であり、集中豪雨が発生しやすい気候特性を併せ持った流域である。 日下川流域は、古くから浸水被害に悩まされ、日高村史によると、「日高村における水害の歴史は過去三百有余年にも遡る」と記されているとともに、流域における近年の宅地化の進行などにより、その被害が深刻化し、浸水被害軽減に向けた抜本的な対策が求められてきた。 表1-1 日下川特定都市河川流域の概要 <table><tr><th>項 目</th><th>流域の諸元</th><th>備考</th></tr><tr><td>特定都市河川流域</td><td>37.7km²</td><td></td></tr><tr><td>特定都市河川</td><td>日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川</td><td></td></tr><tr><td>河川勾配</td><td>日下川：約1/3,000</td><td></td></tr><tr><td>流域内市町村</td><td>日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）</td><td>括弧書きは流域に占める割合</td></tr><tr><td>流域内人口</td><td>約6,000人</td><td>第10回河川現況調査</td></tr><tr><td>年平均降水量</td><td>約2,800mm ※本郷雨量観測所（国）</td><td>平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測</td></tr></table>	項 目	流域の諸元	備考	特定都市河川流域	37.7km ²		特定都市河川	日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川		河川勾配	日下川：約1/3,000		流域内市町村	日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）	括弧書きは流域に占める割合	流域内人口	約6,000人	第10回河川現況調査	年平均降水量	約2,800mm ※本郷雨量観測所（国）	平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測
項 目	流域の諸元	備考																																									
特定都市河川流域	37.7km ²																																										
特定都市河川	日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川																																										
河川勾配	日下川：約1/3,000																																										
流域内市町村	日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）	括弧書きは流域に占める割合																																									
流域内人口	約6,000人	第10回河川現況調査																																									
年平均降水量	約2,800mm ※本郷（旧岩目地）雨量観測所（国）	平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測																																									
項 目	流域の諸元	備考																																									
特定都市河川流域	37.7km ²																																										
特定都市河川	日下川、派川日下川、日下川放水路、新日下川放水路、長山田川、戸梶川、渋川川、石田川、猿田川、妹背川、井峰川、長竹川、宇治谷川																																										
河川勾配	日下川：約1/3,000																																										
流域内市町村	日高村（約68％） 佐川町（約29％） 土佐市（約3％）	括弧書きは流域に占める割合																																									
流域内人口	約6,000人	第10回河川現況調査																																									
年平均降水量	約2,800mm ※本郷雨量観測所（国）	平成5年（1993年）～令和4年（2022年）の平均値 ※2004年は欠測																																									
1	1																																										

計画（素案）	計画（案）
(2)人口・世帯数の推移 日下川流域では昭和50年(1975年)以降に宅地開発が行われ、日高村の世帯数は昭和55年(1980年)から平成17年(2005年)にかけて増加し、以降は減少傾向となっており、令和2年(2020年)には約2,000世帯となっている。 ※出典「昭和55年～令和2年国勢調査結果」 日下川特定都市河川流域の大部分を占める日高村の総人口及び総世帯数を集計 図1-9 国勢調査による日高村の人口・世帯数 (3)降雨特性 日下川流域に近接する佐川雨量観測所(国)及び本郷(旧岩目地)雨量観測所(国)における年最大48時間降水量は、平成26年(2014年)台風第12号による降雨で観測史上最大の739mmを記録した。 ※昭和57年(1982年)以前は佐川雨量観測所、昭和58年(1983年)以降は本郷(旧岩目地)雨量観測所を適用 図1-10 年最大48時間降水量の経年変化	(2)人口・世帯数の推移 日下川流域では昭和50年(1975年)以降に宅地開発が行われ、日高村の世帯数は昭和55年(1980年)から平成17年(2005年)にかけて増加し、以降は減少傾向となっており、令和2年(2020年)には約2,000世帯となっている。 ※出典「昭和55年～令和2年国勢調査結果」 日下川特定都市河川流域の大部分を占める日高村の総人口及び総世帯数を集計 図1-9 国勢調査による日高村の人口・世帯数 (3)降雨特性 日下川流域に近接する佐川雨量観測所(国)及び本郷雨量観測所(国)における年最大48時間降水量は、平成26年(2014年)台風第12号による降雨で観測史上最大の739mmを記録した。 ※昭和57年(1982年)以前は佐川雨量観測所、昭和58年(1983年)以降は本郷雨量観測所を適用 図1-10 年最大48時間降水量の経年変化

計画（素案）				計画（案）																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
第3項 下水道の概要 日下川流域には、令和7年(2025年)3月時点で下水道は整備されておらず、具体的な計画も未定である。 第2節 流域の浸水被害状況 日下川は、洪水時に仁淀川本川の背水の影響を受けないように合流部の神母樋門を全閉するため、日下川の流下能力不足と相まって、台風などの集中豪雨により、過去に大きな浸水被害を受けている。特に、昭和50年(1975年)8月台風第5号による洪水では日下川流域の流出量の大半を内水として抱え込む形となったため、日高村の平野部のほぼ全域が水没し、死者25名を伴う床上浸水659戸、床下浸水121戸の甚大な被害を被った。 以降も平成16年(2004年)10月の台風第23号において床上浸水9戸が発生するなど、床上浸水が頻発していた中、平成26年(2014年)8月3日の台風第12号において床上浸水109戸、床下浸水50戸、浸水面積274ha、さらに、平成26年(2014年)8月10日の台風第11号において床上浸水18戸、床下浸水47戸、浸水面積214haの被害が発生し、1週間の内に2回も甚大な浸水被害が発生した。 表1-2 主要洪水一覧表 <table><tr><th colspan="2">洪水発生年月</th><th rowspan="2">発生原因</th><th rowspan="2">2日間雨量※(mm)</th><th colspan="4">被害状況</th></tr><tr><th>西暦</th><th>洪水月</th><th>浸水面積(ha)</th><th>床上浸水(戸)</th><th>床下浸水(戸)</th><th>全浸水家屋(戸)</th></tr><tr><td>1963</td><td>昭和38年 8月</td><td>台風第 9号</td><td>531</td><td>432</td><td>189</td><td>12</td><td>201</td></tr><tr><td>1970</td><td>昭和45年 8月</td><td>台風第10号</td><td>267</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>1971</td><td>昭和46年 8月</td><td>台風第23号</td><td>428</td><td>－</td><td>19</td><td>77</td><td>96</td></tr><tr><td>1975</td><td>昭和50年 8月</td><td>台風第 5号</td><td>640</td><td>545</td><td>659</td><td>121</td><td>780</td></tr><tr><td>1976</td><td>昭和51年 9月</td><td>台風第17号</td><td>567</td><td>600</td><td>515</td><td>82</td><td>597</td></tr><tr><td>1980</td><td>昭和55年 5月</td><td>豪雨</td><td>279</td><td>129.5</td><td>0</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>1997</td><td>平成 9年 9月</td><td>豪雨</td><td>304</td><td>0.03</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>2003</td><td>平成15年 5月</td><td>台風第 4号</td><td>393</td><td>0.02</td><td>8</td><td>8</td><td>16</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 8月</td><td>台風第10号</td><td>520</td><td>－</td><td>2</td><td>9</td><td>11</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 9月</td><td>9月大雨</td><td>269</td><td>－</td><td>7</td><td>9</td><td>16</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 9月</td><td>台風第21号</td><td>307</td><td>－</td><td>5</td><td>9</td><td>14</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年10月</td><td>台風第23号</td><td>401</td><td>－</td><td>9</td><td>26</td><td>35</td></tr><tr><td>2005</td><td>平成17年 9月</td><td>台風第14号</td><td>415</td><td>－</td><td>4</td><td>3</td><td>7</td></tr><tr><td>2006</td><td>平成18年 4月</td><td>豪雨</td><td>347</td><td>0.3</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>2007</td><td>平成19年 7月</td><td>台風第 4号</td><td>471</td><td>0.08</td><td>4</td><td>6</td><td>10</td></tr><tr><td>2014</td><td>平成26年 8月</td><td>台風第12号</td><td>690</td><td>274.4</td><td>109</td><td>50</td><td>159</td></tr><tr><td>2014</td><td>平成26年 8月</td><td>台風第11号</td><td>397</td><td>214</td><td>18</td><td>47</td><td>65</td></tr></table> ※昭和57年(1982年)以前は佐川雨量観測所、昭和58年(1983年)以降は本郷（旧岩目地）雨量観測所を適用				洪水発生年月		発生原因	2日間雨量※(mm)	被害状況				西暦	洪水月	浸水面積(ha)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全浸水家屋(戸)	1963	昭和38年 8月	台風第 9号	531	432	189	12	201	1970	昭和45年 8月	台風第10号	267	－	－	－	－	1971	昭和46年 8月	台風第23号	428	－	19	77	96	1975	昭和50年 8月	台風第 5号	640	545	659	121	780	1976	昭和51年 9月	台風第17号	567	600	515	82	597	1980	昭和55年 5月	豪雨	279	129.5	0	15	15	1997	平成 9年 9月	豪雨	304	0.03	3	1	4	2003	平成15年 5月	台風第 4号	393	0.02	8	8	16	2004	平成16年 8月	台風第10号	520	－	2	9	11	2004	平成16年 9月	9月大雨	269	－	7	9	16	2004	平成16年 9月	台風第21号	307	－	5	9	14	2004	平成16年10月	台風第23号	401	－	9	26	35	2005	平成17年 9月	台風第14号	415	－	4	3	7	2006	平成18年 4月	豪雨	347	0.3	1	2	3	2007	平成19年 7月	台風第 4号	471	0.08	4	6	10	2014	平成26年 8月	台風第12号	690	274.4	109	50	159	2014	平成26年 8月	台風第11号	397	214	18	47	65	第3項 下水道の概要 日下川流域には、令和7年(2025年)3月時点で下水道は整備されておらず、具体的な計画も未定である。 第2節 流域の浸水被害状況 日下川は、洪水時に仁淀川本川の背水の影響を受けないように合流部の神母樋門を全閉するため、日下川の流下能力不足と相まって、台風などの集中豪雨により、過去に大きな浸水被害を受けている。特に、昭和50年(1975年)8月台風第5号による洪水では日下川流域の流出量の大半を内水として抱え込む形となったため、日高村の平野部のほぼ全域が水没し、死者25名を伴う床上浸水659戸、床下浸水121戸の甚大な被害を被った。 以降も平成16年(2004年)10月の台風第23号において床上浸水9戸が発生するなど、床上浸水が頻発していた中、平成26年(2014年)8月3日の台風第12号において床上浸水109戸、床下浸水50戸、浸水面積274ha、さらに、平成26年(2014年)8月10日の台風第11号において床上浸水18戸、床下浸水47戸、浸水面積214haの被害が発生し、1週間の内に2回も甚大な浸水被害が発生した。 表1-2 主要洪水一覧表 <table><tr><th colspan="2">洪水発生年月</th><th rowspan="2">発生原因</th><th rowspan="2">2日間雨量※(mm)</th><th colspan="4">被害状況</th></tr><tr><th>西暦</th><th>洪水月</th><th>浸水面積(ha)</th><th>床上浸水(戸)</th><th>床下浸水(戸)</th><th>全浸水家屋(戸)</th></tr><tr><td>1963</td><td>昭和38年 8月</td><td>台風第 9号</td><td>531</td><td>432</td><td>189</td><td>12</td><td>201</td></tr><tr><td>1970</td><td>昭和45年 8月</td><td>台風第10号</td><td>267</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>1971</td><td>昭和46年 8月</td><td>台風第23号</td><td>428</td><td>－</td><td>19</td><td>77</td><td>96</td></tr><tr><td>1975</td><td>昭和50年 8月</td><td>台風第 5号</td><td>640</td><td>545</td><td>659</td><td>121</td><td>780</td></tr><tr><td>1976</td><td>昭和51年 9月</td><td>台風第17号</td><td>567</td><td>600</td><td>515</td><td>82</td><td>597</td></tr><tr><td>1980</td><td>昭和55年 5月</td><td>豪雨</td><td>279</td><td>129.5</td><td>0</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>1997</td><td>平成 9年 9月</td><td>豪雨</td><td>304</td><td>0.03</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>2003</td><td>平成15年 5月</td><td>台風第 4号</td><td>393</td><td>0.02</td><td>8</td><td>8</td><td>16</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 8月</td><td>台風第10号</td><td>520</td><td>－</td><td>2</td><td>9</td><td>11</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 9月</td><td>9月大雨</td><td>269</td><td>－</td><td>7</td><td>9</td><td>16</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年 9月</td><td>台風第21号</td><td>307</td><td>－</td><td>5</td><td>9</td><td>14</td></tr><tr><td>2004</td><td>平成16年10月</td><td>台風第23号</td><td>401</td><td>－</td><td>9</td><td>26</td><td>35</td></tr><tr><td>2005</td><td>平成17年 9月</td><td>台風第14号</td><td>415</td><td>－</td><td>4</td><td>3</td><td>7</td></tr><tr><td>2006</td><td>平成18年 4月</td><td>豪雨</td><td>347</td><td>0.3</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>2007</td><td>平成19年 7月</td><td>台風第 4号</td><td>471</td><td>0.08</td><td>4</td><td>6</td><td>10</td></tr><tr><td>2014</td><td>平成26年 8月</td><td>台風第12号</td><td>690</td><td>274.4</td><td>109</td><td>50</td><td>159</td></tr><tr><td>2014</td><td>平成26年 8月</td><td>台風第11号</td><td>397</td><td>214</td><td>18</td><td>47</td><td>65</td></tr></table> ※昭和57年(1982年)以前は佐川雨量観測所、昭和58年(1983年)以降は本郷雨量観測所を適用	洪水発生年月		発生原因	2日間雨量※(mm)	被害状況				西暦	洪水月	浸水面積(ha)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全浸水家屋(戸)	1963	昭和38年 8月	台風第 9号	531	432	189	12	201	1970	昭和45年 8月	台風第10号	267	－	－	－	－	1971	昭和46年 8月	台風第23号	428	－	19	77	96	1975	昭和50年 8月	台風第 5号	640	545	659	121	780	1976	昭和51年 9月	台風第17号	567	600	515	82	597	1980	昭和55年 5月	豪雨	279	129.5	0	15	15	1997	平成 9年 9月	豪雨	304	0.03	3	1	4	2003	平成15年 5月	台風第 4号	393	0.02	8	8	16	2004	平成16年 8月	台風第10号	520	－	2	9	11	2004	平成16年 9月	9月大雨	269	－	7	9	16	2004	平成16年 9月	台風第21号	307	－	5	9	14	2004	平成16年10月	台風第23号	401	－	9	26	35	2005	平成17年 9月	台風第14号	415	－	4	3	7	2006	平成18年 4月	豪雨	347	0.3	1	2	3	2007	平成19年 7月	台風第 4号	471	0.08	4	6	10	2014	平成26年 8月	台風第12号	690	274.4	109	50	159	2014	平成26年 8月	台風第11号	397	214	18	47	65
洪水発生年月		発生原因	2日間雨量※(mm)	被害状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
西暦	洪水月			浸水面積(ha)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全浸水家屋(戸)																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1963	昭和38年 8月	台風第 9号	531	432	189	12	201																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1970	昭和45年 8月	台風第10号	267	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1971	昭和46年 8月	台風第23号	428	－	19	77	96																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1975	昭和50年 8月	台風第 5号	640	545	659	121	780																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1976	昭和51年 9月	台風第17号	567	600	515	82	597																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1980	昭和55年 5月	豪雨	279	129.5	0	15	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1997	平成 9年 9月	豪雨	304	0.03	3	1	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2003	平成15年 5月	台風第 4号	393	0.02	8	8	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 8月	台風第10号	520	－	2	9	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 9月	9月大雨	269	－	7	9	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 9月	台風第21号	307	－	5	9	14																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年10月	台風第23号	401	－	9	26	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2005	平成17年 9月	台風第14号	415	－	4	3	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2006	平成18年 4月	豪雨	347	0.3	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2007	平成19年 7月	台風第 4号	471	0.08	4	6	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2014	平成26年 8月	台風第12号	690	274.4	109	50	159																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2014	平成26年 8月	台風第11号	397	214	18	47	65																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
洪水発生年月		発生原因	2日間雨量※(mm)	被害状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
西暦	洪水月			浸水面積(ha)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	全浸水家屋(戸)																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1963	昭和38年 8月	台風第 9号	531	432	189	12	201																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1970	昭和45年 8月	台風第10号	267	－	－	－	－																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1971	昭和46年 8月	台風第23号	428	－	19	77	96																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1975	昭和50年 8月	台風第 5号	640	545	659	121	780																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1976	昭和51年 9月	台風第17号	567	600	515	82	597																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1980	昭和55年 5月	豪雨	279	129.5	0	15	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1997	平成 9年 9月	豪雨	304	0.03	3	1	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2003	平成15年 5月	台風第 4号	393	0.02	8	8	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 8月	台風第10号	520	－	2	9	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 9月	9月大雨	269	－	7	9	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年 9月	台風第21号	307	－	5	9	14																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2004	平成16年10月	台風第23号	401	－	9	26	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2005	平成17年 9月	台風第14号	415	－	4	3	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2006	平成18年 4月	豪雨	347	0.3	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2007	平成19年 7月	台風第 4号	471	0.08	4	6	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2014	平成26年 8月	台風第12号	690	274.4	109	50	159																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2014	平成26年 8月	台風第11号	397	214	18	47	65																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
10	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

計画（素案）	計画（案）
日下川放水路が完成して以降、大きな浸水被害は発生していなかったが、平成15年(2003年)以降の頻発する床上浸水被害に対して、国・高知県・日高村が連携して、それぞれの役割分担のもと総合的な治水対策を推進するため、「日下川流域総合治水計画」を平成25年(2013年)3月に策定し、排水ポンプ車配置ヤードの整備や内水浸水センサ設置などを実施した。また、平成25年(2013年)12月には河川整備計画を策定し、日下川及び戸梶川の河川整備を位置付けた。 しかし、平成26年(2014年)8月台風第12号洪水により、岩目地^{※2}雨量観測所において観測史上最大の雨量を記録し、甚大な浸水被害が発生したため、平成27年(2015年)に床上浸水対策特別緊急事業に着手した。「日下川流域総合治水計画」は平成27年(2015年)3月に改訂し、計画名称を「日下川総合内水対策計画」に変更(平成28年(2016年)第2回改訂)し、国・高知県・日高村が連携して、ハード・ソフト一体となった総合的な内水対策を進めることにより、平成26年(2014年)8月台風第12号による床上浸水被害の解消を図るとともに、その機能を維持させることとした。併せて、河川整備計画を平成28年(2016年)12月に変更し、支川対策を位置付けた。令和6年(2024年)3月に国による3本目の新日下川放水路の建設が完成したことで、高知県による日下川（戸梶川合流点から上流約4,400m区間）及び戸梶川（日下川合流点上流の約2,050m区間）の河道改修、日高村による浸水防止壁等の建設と併せ、対策が完了した。 また、日高村では、水害の村から、水・自然と共存する村を目指すため、まちづくりの指針として「水害に強いまちづくり条例」が制定され、令和5年(2023年)1月に施行した。この条例では、安全で安心なまちづくりを推進するために、建物の床高などを規制し、村民の命や財産を守る「日高村浸水予想区域」を指定した。また、雨水の「貯留」・「浸透」や洪水による氾濫水の「貯留」を阻害する「貯留浸透阻害行為」を行う場合、事前に村長に届出を行う規制を設けた。 令和6年(2024年)度現在、日下川では高知県によって平成31年(2019年)に大規模特定河川事業に着手し、神母樋門から上流670m区間の河道改修を行うとともに、令和6年(2024年)9月に河川整備計画を変更し、長竹川の河道改修を位置付け、河道の掘削等を予定している。 ※2：現在は本郷雨量観測所  写真1-4 新日下川放水路 写真1-5 日下川河川改修状況	日下川放水路が完成して以降、大きな浸水被害は発生していなかったが、平成15年(2003年)以降の頻発する床上浸水被害に対して、国・高知県・日高村が連携して、それぞれの役割分担のもと総合的な治水対策を推進するため、「日下川流域総合治水計画」を平成25年(2013年)3月に策定し、排水ポンプ車配置ヤードの整備や内水浸水センサ設置などを実施した。また、平成25年(2013年)12月には河川整備計画を策定し、日下川及び戸梶川の河川整備を位置付けた。 しかし、平成26年(2014年)8月台風第12号洪水により、本郷雨量観測所において観測史上最大の雨量を記録し、甚大な浸水被害が発生したため、平成27年(2015年)に床上浸水対策特別緊急事業に着手した。「日下川流域総合治水計画」は平成27年(2015年)3月に改訂し、計画名称を「日下川総合内水対策計画」に変更(平成28年(2016年)第2回改訂)し、国・高知県・日高村が連携して、ハード・ソフト一体となった総合的な内水対策を進めることにより、平成26年(2014年)8月台風第12号による床上浸水被害の解消を図るとともに、その機能を維持させることとした。併せて、河川整備計画を平成28年(2016年)12月に変更し、支川対策を位置付けた。令和6年(2024年)3月に国による3本目の新日下川放水路の建設が完成したことで、高知県による日下川（戸梶川合流点から上流約4,400m区間）及び戸梶川（日下川合流点上流の約2,050m区間）の河道改修、日高村による浸水防止壁等の建設と併せ、対策が完了した。 また、日高村では、水害の村から、水・自然と共存する村を目指すため、まちづくりの指針として「水害に強いまちづくり条例」が制定され、令和5年(2023年)1月に施行した。この条例では、安全で安心なまちづくりを推進するために、建物の床高などを規制し、村民の命や財産を守る「日高村浸水予想区域」を指定した。また、雨水の「貯留」・「浸透」や洪水による氾濫水の「貯留」を阻害する「貯留浸透阻害行為」を行う場合、事前に村長に届出を行う規制を設けた。 令和6年(2024年)度現在、日下川では高知県によって平成31年(2019年)に大規模特定河川事業に着手し、神母樋門から上流670m区間の河道改修を行うとともに、令和6年(2024年)9月に河川整備計画を変更し、長竹川の河道改修を位置付け、河道の掘削等を予定している。  写真1-4 新日下川放水路 写真1-5 日下川河川改修状況 表1-3 日下川治水事業の概要

計画（素案）

一方、近年の気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、計画を上回る洪水が発生した場合においても、人命、資産、社会経済の被害を可能な限り軽減できるような流域治水対策を推進する。

各主体において実施する整備の計画雨量については、必ずしも本計画の降雨に縛られるものではなく、降雨・流出特性の違いや過去の浸水実績等により、各々の流域の特徴から第4章に記載する本計画における河川管理者が行う整備は、河川整備計画に沿ったものとする。

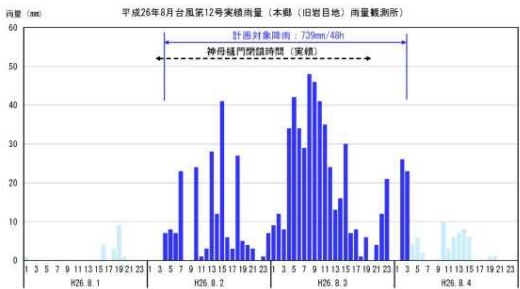


図2-5 都市浸水の発生防止・軽減を図るべき目標となる降雨

第5節 流域分担に関する考え方

計画対象降雨の平成26年(2014年)8月台風第12号実績降雨により神母樋門閉鎖から日下川の内水位が最大となる時点までの総流出量の約13,296千 m^3 に対して、これまでの河川整備により床上浸水解消を図っており、湛水量（氾濫量）は約3,899千 m^3 （床上浸水発生）から約1,593千 m^3 （床下浸水）まで大幅に減少している。

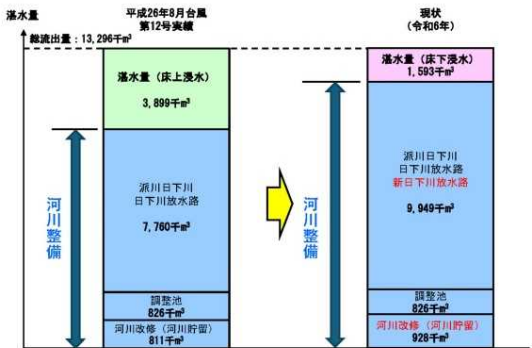


図2-6 これまでの河川整備等による湛水量の減少

計画（案）

一方、近年の気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、計画を上回る洪水が発生した場合においても、人命、資産、社会経済の被害を可能な限り軽減できるような流域治水対策を推進する。

各主体において実施する整備の計画雨量については、必ずしも本計画の降雨に縛られるものではなく、降雨・流出特性の違いや過去の浸水実績等により、各々の流域の特徴から第4章に記載する本計画における河川管理者が行う整備は、河川整備計画に沿ったものとする。

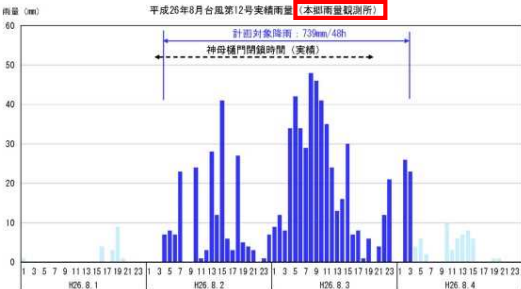


図2-5 都市浸水の発生防止・軽減を図るべき目標となる降雨

第5節 流域分担に関する考え方

計画対象降雨の平成26年(2014年)8月台風第12号実績降雨により神母樋門閉鎖から日下川の内水位が最大となる時点までの総流出量の約13,296千 m^3 に対して、これまでの河川整備により床上浸水解消を図っており、湛水量（氾濫量）は約3,899千 m^3 （床上浸水発生）から約1,593千 m^3 （床下浸水）まで大幅に減少している。

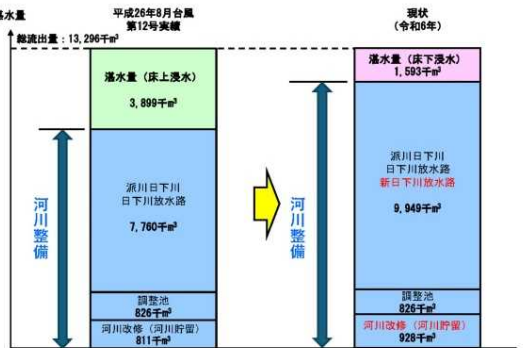


図2-6 これまでの河川整備等による湛水量の減少

計画（素案）	計画（案）
第3節 市町村が行う河川の整備 第1項 普通河川等の整備 市町村が管理する普通河川や水路等においても、沿川地域の市街地・農地への浸水被害を防止・軽減するとともに、雨水の一時的な貯留等に活用を図るため、必要に応じて、河道掘削、護岸整備等を行う。 整備前  整備中  ：掘削（令和6年度完了予定） 写真4-3 日高村が行う水路の整備（岡花地区） 第2項 浸水防止壁、雨水排水ポンプ 日高村では、日下川総合内水対策計画に基づき、馬越地区には浸水防止壁及び雨水排水ポンプを設置している。洪水時には、施設の機能を適切に発揮させるため、県道291号に持ち運び式洪水防止壁の設置及び雨水排水ポンプの運転を行う。 また、計画対象降雨のみならず、気候変動による影響も踏まえ、河川整備実施後も浸水被害の発生が想定される地区を対象に、雨水排水ポンプによる効果や下流域への負荷を評価した上で、雨水排水ポンプの整備・増強を行う。 整備前  整備後  ：整備箇所 写真4-3 日高村が行う水路の整備（岡花地区） 第2項 浸水防止壁、雨水排水ポンプ 日高村では、日下川総合内水対策計画に基づき、馬越地区には浸水防止壁及び雨水排水ポンプを設置している。洪水時には、施設の機能を適切に発揮させるため、県道291号に持ち運び式洪水防止壁の設置及び雨水排水ポンプの運転を行う。 また、計画対象降雨のみならず、気候変動による影響も踏まえ、河川整備実施後も浸水被害の発生が想定される地区を対象に、雨水排水ポンプによる効果や下流域への負荷を評価した上で、雨水排水ポンプの整備・増強を行う。 写真4-4 浸水防止壁と雨水排水ポンプ（馬越地区）  写真4-4 浸水防止壁と雨水排水ポンプ（馬越地区）  36	第3節 市町村が行う河川の整備 第1項 普通河川等の整備 市町村が管理する普通河川や水路等においても、沿川地域の市街地・農地への浸水被害を防止・軽減するとともに、雨水の一時的な貯留等に活用を図るため、必要に応じて、河道掘削、護岸整備等を行う。 整備前  整備後  ：整備箇所 写真4-3 日高村が行う水路の整備（岡花地区） 第2項 浸水防止壁、雨水排水ポンプ 日高村では、日下川総合内水対策計画に基づき、馬越地区には浸水防止壁及び雨水排水ポンプを設置している。洪水時には、施設の機能を適切に発揮させるため、県道291号に持ち運び式洪水防止壁の設置及び雨水排水ポンプの運転を行う。 また、計画対象降雨のみならず、気候変動による影響も踏まえ、河川整備実施後も浸水被害の発生が想定される地区を対象に、雨水排水ポンプによる効果や下流域への負荷を評価した上で、雨水排水ポンプの整備・増強を行う。 写真4-4 浸水防止壁と雨水排水ポンプ（馬越地区）  写真4-4 浸水防止壁と雨水排水ポンプ（馬越地区）  36

「ご意見・ご質問」を踏まえ今後検討が必要な課題について

- パブリックコメントや住民説明会、学識経験者への意見聴取でいただいたご意見の中で、以下課題については、今後、日下川流域水害対策協議会等で議論を重ね、課題解決に向けた検討を進めてまいります。

流域住民への広報等に関する意見

- ・ 日下川流域の住民に本計画の内容を更に理解してもらうため、広報等を活用してもう少し浸水被害等について周知してほしい。
- ・ 具体的な河川整備事業のイメージや進捗状況、数値目標等を明示して、国や県が行っている事業が住民にわかるようにしてほしい。
- ・ 「田んぼダム」の取組の実施により田んぼ所有者にも日常的なメリットがあるため、それらのメリットをアピールし、農家の方々から理解を得る工夫を行うことが重要。

流域水害対策計画全般に関する意見

- ・ 現在作成している流域分担図は最大時点での湛水量のみのため、水収支分布図を用いて各時間帯毎の湛水量等を算出し、どの時間帯でどの施設で分担するかを検討する必要がある。
- ・ 計画に森林部局の取組や林業との連携など、山の対策に関する記載がないため、計画への追記や協議会への参画などについて検討してほしい。